



INDEX

未成年者と弱い立場にの成人の 保護責務の強化、マレーシアとシンガポール .. 1	
総長、 無原罪の御宿り管区(スペイン)訪問	3
総本部の予定	3
Tempo Forte	4
カロス、美のフランシスカンネットワーク	5
トスカーナ・聖痕の聖フランシスコ管区、 管区の新し奉仕者たち選出	6
マルタ駐在、総本部JPIC委員会副委員長 使徒聖パウロ管区訪問	7
未成年者と弱い立場の成人の 保護のための養成会合	8
インドにおける 新修練者、誓願、叙階	9
召命の恵みの一週間、 養成の重要な諸段階	10
Life in the Order	11
生涯養成における 同伴のプログラム	12
フランシスカン新刊	12

未成年者と弱い立場にの成人の 保護責務の強化、 マレーシアとシンガポール

聖アントニオ分管区で
保護の日を開催

聖アントニオ独立分管区（マレーシアーシンガポールーブルネイ）は、2026年6月1日にシンガポールにおいて、また2026年6月10日にマレーシア東部のクチンにおいて開催された内容の濃い2つの「保護の日」を通して、未成年者と弱い立場におかれている成人に対する配慮の責務をあらためて確認した。

これらの養成プログラムには、分管区の全域から、兄弟たち、常勤の職員、主要な役割を担うボランティア、ならびに小教区の司牧活動の責任者たちが集まった。参加者たちのなかには、シンガポール、マレー半島（ペナンやジョホール）、マレーシア東部（サバやサラワク）において、兄弟たちに委ねられている奉仕職で働く人たちのほか、聴覚障害者のための奉仕職「Sign Light」の責任者やボランティアも含まれていた。重要な司牧的責任を担う人や指導的な立場にある人には、参加が義務付けられていた。

マレーシアとシンガポールの兄弟た





ちと、分管区の職業基準・未成年者と弱い立場におかれている成人の保護担当室長であるChristopher Hu氏との間で以前開かれた会合の結果、この保護の日の開催が決まった。これらの養成イベントは、分管区がすべての奉仕職において保護、責任、配慮の文化を強化する継続的な責務の一環である。

プログラムでは、世俗法、教会法、心理学、心理カウンセリングの分野に精通した兄弟たちや信徒の専門家たちによる発表や意見交換の時間が設けられた。午前のセッションでは、参加者たちは、「現在の状況：現状の把握と判断」と題された会合で、教会における性的虐待の危機、「聖職者中心主義」ならびに「虐待がもたらす発達の・法的・社会的な影響」といった問題に取り組んだ。

昼食後、「私たちはどこへ向かっているのだろうか。『観察』と『判断』から『行動』へ」というテーマのもと、焦点は具体的な行動へと移り、未成年者と弱い立場におかれている成人のための安全な環境の構築を中心に話し合われた。また、参加者たちには、分管区の「保護マニュアル」に基づく指針が示された。取り上げられた議題のなかには、被害者が利用できる選択、分管区の調査プロセス、意志決定の方法、懸念される事態の通報における責任、通報の対象となった人たちに対する制限、およびその人たちの権利や利用可能な選択などが含まれていた。

Hu氏は、「私たちは、それぞれの奉仕職において、より高いレベルの専門性を身につけなければなりません」と述べ、司牧奉仕に携わるすべての人が共有する責任を強調した。また、この養成には、虐待の被害者に対して共感をもって傾聴する

方法や、ゆるしの秘跡において虐待に関連する問題が浮上した際に適切に対応する方法についての実践的な指示も含まれていた。

それぞれの保護の日は、参加者たちが分管区の行動規範を受け入れる宣言に署名することで終わった。これは、それぞれが自分の奉仕職において保護の原則を支持するという責務を目に見えるかたちで示すものであった。

聖アントニオ分管区の分管区長で、マレーシア・シンガポール・ブルネイの修道会長上協議会において保護担当の代表も務める兄弟Derrick Yap (OFM) は、将来を見据えながら、地域教会内で連携を強化するために現在進められている取り組みについて明らかにした。

そして、「現在、連携とリソースの共有を促進するために、さまざまな教区や修道会から代表者を集めて、マレーシア・シンガポール・ブルネイ地域カトリック司教協議会内に保護チームを設立しようとしています。このチームは、15名のメンバーで構成される予定です」と述べた。

また、分管区は、策定した方針やその実現の有効性を評価し、責任と改善の継続的なプロセスを保証するため、2〜3年ごとに保護に関する監査を実施することを約束した。

兄弟たちや協力者たちは、こうした養成の取り組みを通して、安全な環境を築き、被害を受けた人たちを支え、マレーシアおよびシンガポールの全域において未成年者と弱い立場におかれている成人を保護するという教会の福音的な責任を忠実に果たしていく決意を表明し続ける。

Government of the Order



総長、 無原罪の御宿り管区（スペイン）訪問

カリスマは私たちを超越しており、私たち共に、私たちを超えて生き続ける



WWW.OFM.ORG

総長の兄弟Massimo Fusarelliは、総理事の兄弟Cesare Vaianiとともに、6月1～6日にかけて、スペインの無原罪の御宿り管区を訪問した。「貧しいキリストに従いながら、福音を告知するために派遣された」というモットーのもとで行なわれたこの兄弟的訪問は、マドリードからアンダルシア、エストレマドゥーラ、レバンテを経てムルシアにいたるまでスペイン各地を巡りながら、フランシスカンの記憶の場所と現代の諸課題とを結びつけるものであった。行程は、マドリードにおいて、サン・アントニオ・デル・レティーロにおける福音宣教事務局との会合や、サン・フランシスコ・エル・グランデのバシリカにおける祈りのひとときで幕を開けた。それから訪問団は、セビーリャ近郊のヌエストラ・セニ

ョーラ・デ・ロレト聖所記念堂に向かい、次いでエル・パラカルの隠遁所とグアダルーペ、さらにはレバンテ地方バレンシア近郊のサント・エスピリトゥ・デル・モンテ、そして最後にカルタヘナ、サンタ・カタリーナ・デル・モンテ、ムルシアを訪れた。それぞれの訪問先では、朝の祈り、ミサ、隠遁所における沈黙といった共同の祈りや、兄弟たちとの対話が行なわれた。

ロレートやサント・エスピリトゥで開かれた兄弟たちとの全体会合や、その後開催された管区理事会との対談では、穏やかで率直な雰囲気醸成されていた。そこでは、「時代の転換」の真ただ中にあるスペインにおけるフランシスカンの現在の活動と未来に

総本部の予定



☑ 総理事の兄弟César Kulkampは、6月15～20日、エクアドルのキトにおいて、ボリビア地域フランシスカン諸管区協議会に属する管区の管区長、養成・学問、福音宣教、正義と平和・被造物の保全の担当者たちの代表とともに、同諸管区協議会の会合に参加中である。その後、6月21～26日、キトの聖フランシスコ管区（エクアドル）を訪問し、6月23～25日管区の兄弟たちや被養成者たちが集まってアソグスで開かれる管区の幕屋の集会にも参加する予定。

☑ 総理事の兄弟Cesare Vaianiは、6月18～7月2日、南ヨーロッパ諸管区協議会の慈善事業部門の責任者の兄弟たちの会合に参加し、「フランシスカンのカリスマにおける愛徳」に関する考察を発表する予定。

☑ 副総長の兄弟Ignacio Cejaは、どちらもジャカルタで開催される、アジア・オセアニア地域の正義と平和・被造物の保全大陸会合の開会式と、アジア諸管区協議会会合の冒頭に参加するため、インドネシアを訪問予定。その後、大天使聖ミカエル管区のいくつかの共同体を訪問予定。

☑ 兄弟Cesare Vaianiと修道女担当総補佐の兄弟Fabio César Gomesは、6月21～7月1日、ローマのサンタ・キアラ修道院において、クララ会総会憲改訂委員会会合に参加予定。6月24日には、総長の兄弟Massimo Fusarelliも同委員会と会い、一緒に教皇謁見に参加する予定。

☑ 兄弟Massimo Fusarelliのコンゴ共和国のアフリカの聖母宣教地区訪問は、6月21日続く。6月24～26日は、総理事の兄弟Albert Schmuckiとともに、オランダのヘルト・ヘンボスを訪問し、将来の連携強化を見据えたドイツの聖エリザベト管区とオランダおよびフランドル地方のゴルクムの聖殉教者管区の管区理事会会合に出席予定。

☑ 兄弟Massimoは、6月27～29日、総理事の兄弟Konrad CholewaならびにOFMフラテルニタス財団会長の兄弟Franco Mirriとともに、オルシュティン小教区設立100周年のため、ポーランドを訪問予定。6月30～7月4日は、大天使聖ミカエル管区およびフランシスカンの諸聖人宣教地区訪問のため、ウクライナを訪れる予



ついて話し合われた。教会は、「量から意義へ」と移行するよう呼びかけられている一方で、受け継ぐのではなく選択をした、マイノリティーではあるが熱心な若者たちの驚くべき目覚めも経験している。『福音宣教綱領：全世界に行きなさい』や聖霊降臨祭の総長書簡『800周年を越えて：命を与える聖霊』でも取り上げられている根本的な問いが、すべての会合に同伴していた。「今日、カリスマの賜物は、小さき兄弟にどのような形態を与えるのか」という問いである。その背景には常に、単に記念するだけでなく、再生への呼びかけでもある聖フランシスコの帰天800周年がある。また、現実主義と信頼をもって見据えていく、イベリア半島の姉妹諸管区との共同の歩みもあった。

ロレートとサント・エスピリトゥで開かれた、クララ会、無原罪の御宿り会、ならびにその他の観想修道会との2度の会合では、現代におけるカリスマの本質、すなわちフランシスカン的な生活の軸であり、動き続ける体の錨でもある観想的な次元が中心となった。また、修道院の具体的な清貧、新たな道を歩む女性たちの召命の受け入れ、そしてすでにもう各共同体に浸透している文化の垣根を超えた養成について話し合われた。異文化間の養成では、異なる文化を背景としたシスターたちが、これまでにないようなキリストの顔をもたらししている。こうした異文化性は、それ自体が米国の告知であるという話もあった。

在世フランシスカンとの会合や、管区内の14の寄宿学校およびカルタヘナの寄宿学校の学生、教育者、責任者たちとの会合、そして教皇のスペイン訪問に向けて出発する若者たちとの会合では、兄弟たちと一緒に宣教の共同責任を担う大人の信徒たちと触れ合うことができた。信徒の共同責任は、教育分野、青少年司牧、社会事業において、緊急の解決策ではなく、聖霊の導く道として登場した。それは、カリスマが生き続けるための支えを見いだしていく、新たなかた

ちなのである。

このようにさまざまな人と出会い、さまざまな場所を訪問するうちに、この一連の訪問に統一感をもたらす意味が明らかになってきた。カリスマは私たちを超越しており、まさにそれゆえに、私たちとともに、私たちを超えて生き続けるのである。これらの日々が始まった動きは、総長がローマに向けて出発すれば終わってしまうようなものではない。それは、開かれた対話と未来を見据えたまなざしのなかで、継続していくものなのである。

Tempo Forte



Communiqué Tempo Forte



*Ordo Fratrum Minorum
Secretarius Generalis*

The Communiqué of the General Definitory relating to the Tempo Forte for May 2026 has been published.

Download PDF: [Italiano](#) - [English](#) - [Español](#)

Franciscan Centenaries



カロス、美のフランシスカンネットワーク

5月8～10日、レッツェ



WWW.OFM.ORG

レッツェの聖母被昇天管区の小さき兄弟会員たちは、5月8～10日にかけて、イタリアのレッツェにおいて、レッツェ大司教区およびレッツェ市との協力のもと、聖フランシスコの帰天800周年を記念して、「カロス (Kalòs)、美のフランシスカンネットワーク: 裸足で、目を大きく見開いて」というイベントを開催した。

レッツェ市は、同市を芸術、霊性、市民活動が一つに融合した野外ラボに変え、市民的、社会的、環境的、文化的な配慮をもって「美」の構築に取り組む数多くの地域団体を結びあわせながら、このカロスを歓迎した。このイベントは、フランシスカンのメッセージを評価して現代的に解釈しつつ、美の地域的なネットワークを活性化させながら、人々が分かち合い、参加する美を生み出すことのできる、まさに経験のモザイクであった。

プログラムは、五感に訴えるテーマごとの行程を通して展開され、市内のもっとも象徴的な場所で、子どもたち、若者、そして大人たちが積極的に参加した。広場、教会、その他の公共スペースなど、市の中心部も郊外も含む14の場所で行なわれた。26の団体が参加し、それぞれが独自に美に対する貢献をした。4つの展覧会が準備された。『被造物の賛歌』をテーマにした国際写真展、

オリーブの木の彫刻展、パンの展示会、そして果物を題材とした絵画展である。さらに、『被造物の賛歌』に着想を得た豪華な花の絨毯が制作されたほか、16のワークショップ(演劇、音楽、被造物の保全、奉仕活動、市民参加)も開かれた。これらのイベントに加え、聖フランシスコのメッセージにおける美の価値を深く掘り下げることを目的としたフランシスカン主催の講演会も開催され、歴史家のLetizia Pellegriniが登壇した。この数日間の中核となったのは、Eloi Leclercの小説『貧者の知恵』を原作とし、Pino Quartulloが演出を手掛けた舞台『フランシスコの旅』や、Massimo

Donno、Radiodervish、アートコミュニケーターのBenedetta Colomboなどのアーティストが参加した『カリスペラ (Kalispera)』、『メイド・イン刑務所』(受刑者の労働によって廃棄された繊維を再生し、受刑者に新たな機会を提供している団体)、スローフード、リベラ(マフィアに対する市民活動や没収資産の集団返還に取り組む団体)などのあかし、そして兄弟Matteo Brennaによる聖地に関するあかしなどである。



日曜日、閉幕イベントの「祝日のカロス」によって、広場は多くの人が行きかう場に姿を変えた。音楽、ダンス、ワークショップが行なわれ、最後は管区長の兄弟Massimo Tunnoが司式する大聖堂における荘厳ミサで幕を閉じた。カロスは、フランシスカンのカリスマに内在する美を再発見し、その価値を評価するまたとない機会となった。そして、参加者全員に、「どうすれば、一人ひとりが美を生み出す者になれるのか」という問いを投げかけた。この問いは、私たちに共同の責任を呼びかけ、美の足跡の種を蒔くよう招くものである。

今回のイベントのタイトルは、フランシスコの様式を要約したものである。裸足で、目を大きく見開いた美に対するアプローチは、謙虚さ、素朴さ、そして小さなことのうちにも驚異を感じながら、現実には驚き、感動する能力へとつながっていく。総長の兄弟Massimo Fursarelliは、このイベントのために送ったメッセージをこう結んでいる。「フランシスコは、『善』を反映するものとして『美』を観想していました。それは、慰めを与える美学ではなく、回心を招き、兄弟性と『共通の家』への配慮を育むまなざしなのです。この数日間に行なわれたすべてのラボ、ワークショップ、会合は、結局のところ、このまなざしの実践でした。こうして、驚き、手に触れ、耳を傾け、大切に守っていくことをあらためて学んでいくのです。」



トスカーナ・聖痕の聖フランシスコ管区、 管区の新し奉仕者たち選出 イタリア・ルッカで管区会議開催



WWW.OFM.ORG

フランシスカン家族がアシジの聖フランシスコのトランシトゥス800周年を記念する2026年5月4～日から15日にかけて、トスカーナ・聖痕の聖フランシスコ管区の兄弟たちがルッカの聖チェルボーネ修道院に集い、管区会議を開催した。会議は、総視察者である Br. Alberto Pisapia 議長のもとで執り行われた。

会議の幕開けとして、教皇庁説教者である Fr. Roberto Parsolini, OFM Capによる黙想と祈りの日が設けられた。兄弟たちと深い霊的黙想を共有し、会議における識別の指針となる福音書およびフランシスカンの基準を提示した。

聖フランシスコの『遺言』の言葉にインスピレーションを得た「いと高き方ご自身が私に明かしてくださった……」というテーマのもと、兄弟たちは傾聴、対話、そして兄弟的な識別の濃密な時間を体験した。これにより、現在および未来の課題

に信頼をもって向き合いながら、共同体、ミノーリタス、観想、そして宣教の中でフランシスカンのカリスマを生きるという誓いを新たにした。

特に意義深かったのは、シエナ、コッレ・ディ・ヴァル・ディエルザ、モンタルチーノ大司教であり、トスカーナ地方司教協議会会長でもある Augusto Paolo Lojudice 枢機卿との会談である。枢機卿は、同地域における小さき兄弟会の存在と司牧活動に対するトスカーナの諸教会の見解と期待を兄弟たちと共有した。この対話は、フランシスカンのカリスマがトスカーナの地において、教会生活と福音の宣教に今後も貢献していくための重要な意見交換の場となった。

また、在世フランシスカンおよびフランシスカン青年会の代表者との会合も実り多く、フランシスカン家族の生命力と、福音の使命において共に歩む意欲

を示すものとして、会議の考察に大きく寄与した。

5月11日と12日の両日は、今後6年間、管区の兄弟たちのために奉仕する以下の奉仕者たちが選出された。

・管管区長:

Br. Guido Fineschi, OFM

・副管区長:

Br. Francesco Baldini, OFM

・管区理事:

Br. Matteo Brena, OFM

Fr. David Gagrcic, OFM

Br. Federico Russo, OFM

Br. Matteo Tosti, OFM

管区会議の締めくくりには、養成中の兄弟たちや、さまざまな事情により、これまでの管区会議の諸作業に参加できなかった兄弟たちも合流した。兄弟愛と喜びを共有する雰囲気の中、管区は一つとなり、これまでの歩み、管区会議の成功、そして主が共同体に与え続けている多くの恵みに感謝を捧げた。

それは簡素ながらも意義深い瞬間であり、これから主が管区の歩みと使命を導き、支え続けてくださることに信頼を持って、共に歩み続ける決意を示すものとなった。



Animation of the Order



使徒聖パウロ管区訪問 マルタ駐在、総本部JPIC委員会副委員長



WWW.OFM.ORG

2026年6月4～8日にかけて、小さき兄弟会総本部「正義・平和・被造物の保全 (JPIC)」委員会の副委員長である Br.Taucen Girsangが、マルタの聖パウロ使徒管区を短期訪問した。今回の訪問は、JPICの様々な使徒職に従事する兄弟たちと面会し、その活動に耳を傾けることを目的として行われた。



多文化共生の教会訪問の中で最も意義深かった体験の一つが、バレッタにある国際的フランシスカン共同体との出会いである。このフランシスカンの教会は、多様な国籍の信者たちを広く受け入れており、マルタ人の兄弟と、海外出身の Br.Thomas OFM(インド)、Br.Arsan OFM(パキスタン)、Br.Jhoan OFM(フィリピン)が協働して使徒職を担っている。

兄弟たちが、パキスタン、インド、フィリピンなどの出身の移民や労働者を含む、多様な文化的・社会的・国家的背景を持つ人々のニーズに応えている現実と直接触れることができた。多文化共生の生活は、統合、対話、コミュニケーション、そして相互理解についての問いを常に投げかけている。この文脈において、管区長の Br.Ramon Farrugia OFMは、フランシスカンの霊性とカリスマが、統合と兄弟愛のための強力な手段として機能していると語る。これらがあるからこそ、異なる国や文化を持つ修道者たちが一つの使命のもとで協働し、相互の尊重と協力を育むことが可能となっている。フランシスカンの修道院を、世界中の修道者のための「開かれた天幕」と捉えるビジョンは、現代の

人々に寄り添う上でフランシスカンの霊性がどのように活かされ続けるかという問いに対し、示唆に富む答えを提示している。

ダル・フラテ・ヤコバ: 自給自足のコミュニティ訪問団は、Br.Raymond OFMが統括する、リサイクル、再利用、持続可能な生活の価値を推進するためのコミュニティ「ダル・フラテ・ヤコバ」も訪れた。このプロジェクトは、畜産、農業、教育、職業訓練、再生可能エネルギー、電気自動車、太陽光発電を結びつけた包括的な取り組みを実践している。

このような先駆的な活動には、適切な人員、資金援助、強力な地域社会の関与、あるいは効果的な協力体制が不可欠である。この経験は、自給自足のコミュニティを支援・拡大できる組織的な使徒職を確立することの重要性を浮き彫りにしている。修道者やボランティアの献身は現在も不可欠である一方、プロジェクトの成功と持続可能性を確かなものにするためには、専門知識を持つプロフェッショナルの関与が必要とされる場面も多い。

ピース・ラボ(平和研究所)もう一つの重要な訪問先は、著名なセンターである「ピース・ラボ」であった。同センターは、2022年4月のマルタ使徒旅行の際に教皇フランシスコも訪問した場所である。当時の訪問では、地元のJPICアニメーターである Br.Dionysius OFMが、教皇と直接面会して言葉を交わす機会を得ている。

ピース・ラボの運動は、第一次および第二次世界大戦後の時期にさかのぼる。創設者は、社会における平和と和解を促進することの緊急性に突き動かされてこの活動を始めた。初期の使命はラジオ放送を通じて展開され、より広い聴衆に向けて平和のメッセージが発信された。

時代とともに、平和に関する教育教材がマルタ全土の学校に導入され、若者たちが平和構築や回勅『地上の平和(パーチェム・イン・テリス)』の教えについて学ぶ一助となった。この運動の大きな成果の一つは、マルタにおける国家的な「平和の日」(毎年7月1日)の制定に貢献したことである。今日、この豊かな遺産を未来へと継承し、マルタのフランシスカンの兄弟たちによる平和の声を響かせ続けることが求められている。

スープ・キッチン(無料給食活動)バレッタにおけるスープ・キッチンの使徒職は、Br. Marcellino OFM 修道者がヨーロッパのいくつかのフランシスカン組織における同様の取り組みを学び、協働を経た後、6年前に設立したものである。この使徒職は、様々な形態の脆弱性に直面している人々、特に精神衛生上の課題や社会的排除に苦しむ人々を支援しており、1日平均約80人がこのサービスを利用している。

食事の提供にとどまらず、この使徒職は訓練やボランティア活動、地域社会への積極的な参加の機会を創出している。歯科医、看護師、医師をはじめとする多くの医療専門家が、その専門知識を活かしてこの使命を支えている。このプロジェクトは多くの奉仕と雇用の機会を生み出し、幅広い社会的支援ネットワーク

を形成している。この使徒職が効果的に機能するかどうかは、専門的な管理、献身的なボランティア、そして資金調達、寄付、説明責任、透明性のある報告を監督する財団および委員会メンバー(理事)のサポートにかかっている。

今回のマルタ訪問は、フランシスカンのカリスマがJPICの使徒職を通してどのように具現化されているかについて、貴重な洞察を与えるものとなった。多文化共生の兄弟愛や持続可能な生活から、平和教育や社会的弱者への奉仕に至るまで、これらの取り組みは、フランシスカンの霊性が現代の課題に対して、いかに創造的かつ効果的な方法で応え続けているかを証明している。

未成年者と弱い立場の成人の保護のための養成会合 奉獻生活における霊的な虐待と良心の搾取について



WWW.OFM.ORG



小さき兄弟
会総本部未
成年者と
弱い立場
におかれ
ている成
人の保護
担当室

る困難についても取り上げられた。参加者たちは、修道共同体や養成の家の内部において、保護、責任、透明性、そして傾聴の文化を促進していくための実践的な方法を模索した。

この会合は、奉獻生活において安全な環境の構築を促進するという共通の責務で締めくくられた。教会共同体は、意識の向上、生涯養成、対話、責任を通して、人間の尊厳を守り、良心の自由を尊重し、福音に根ざした健全な関係を促進し続けることができるのである。

は、2026年5月21日に、「奉獻生活の文脈における霊的な虐待あるいは良心の搾取をどのように特定し、予防していくか：被害者と加害者のケア」と題したオンラインの養成会合を開いた。この会合は、Giorgio Ronzoni教授が講師となり、兄弟Eduard Iurii Semko, OFMが議論の進行を主導する司会を務めた。

この養成会合は、とくに奉獻生活や修道養成の文脈における霊的な虐待および良心の搾取の本質とメカニズムについての理解を深めることを目的としていた。70名を超える参加者たちは、霊的権威、従順、聖書、召命の言語が、どのように時として不適切に利用され、個人の自由、尊厳、良心の統合性を損なう危険をはらんでいるかについて省察した。議論では、被害者がこうした経験を認識し、告発する際に直面す



News from the Entities



インドにおける新修練者、誓願、叙階 インドの小さき兄弟会：献身と恵みの季節



WWW.OFM.ORG



2026年5月の下旬、インドにおける小さき兄弟会は、深い霊的刷新の季節を迎えた。若い兄弟たちが従順、清貧、貞潔の生活を約束し、すでにその歩みを進めている兄弟たちがフランシスカンの生活を定義する神聖な誓願を新たにした。使徒聖トマス管区、神の母聖マリア分管区（クストディア）、およびアシジの聖フランシスコ財団（インド半島に存在する3つの組織）の全体において、福音は単に読まれるだけでなく、再び生きられ、受け入れられ、宣誓された。

1年間の志願期（ポストランシー）を終えた16人の兄弟たちが、フランシスカンの歴史と古い伝統の門をくぐった。2026年5月30日、管区長のBr. Xavier Durairajが修練院の扉を開き、志願者たちの熱意に満ちたノックに応えて、彼らを小さき兄弟会へと迎え入れた。厳かな行列によって修練院の聖堂へと導かれた新修練者たちは、フランシスカンとしての歩みの始まりを象徴する3つの贈り物を授かった。

最初に授かったのはサン・ダミアーノの十字架であり、これはフランシスカンの召命を識別し、福音の道を歩むよう招かれていることのしるしである。続いて、福音の道を果敢に歩むための明確な指針と勇気の象徴として、小さき兄弟会の『会則と会憲』の書物が授与された。最後に、兄弟たちは長年の夢であったフランシスカンの修道服（ハビット）を身にまとし、小さき兄弟会におけるフランシスカンとしての旅路を本格的にスタートさせた。

その翌日の2026年6月1日、パラマネールの聖ルイ修道院の共同体において、修練長Br. Charles Bernardおよび修道院長Br. Tommy TJの指導のもとで1年間の修練期を終えた20人の修練者が、Br. Xavier Durairaj管区長の手において初誓願（有期誓願）を宣立した。彼らは喜びと厳かさのうちに、従順、所有なし（清貧）、および貞潔のうちに主イエス・キリストの聖なる福音を生きることを宣言した。説教の中でBr. Xavier管区長は、新誓願者たちに対し、今後の養成期間（フォルマシオン）の中でフランシスカンの生活様式の奥深さを学びながら、福音に忠実に歩むよう励ました。そして、世界が切に、また長期にわたって必要としている「福音の証人」として彼らを際立たせるような、強固な心を培うよう呼びかけた。

管区、分管区、財団の全体において、29人の有期誓願者がさらに1年間誓願を更新し、福音に生きる生活様式に再びコミットするとともに、小さき兄弟会において歩み続ける明確な意志を表明した。それぞれの兄弟が、かつて自ら進んで受け入れた道を、完全な自由と確信をもって再び選択した。

この季節は、多くの兄弟たちの司祭叙階および助祭叙階によって、さらに豊かなものとなった。4月と5月には、Br. Pradeep Anthony、Br. Anthony Joseph Archer、Br. Andrew Thomas、Br. Nelson Toppo、Br. Niraj Kumar Tirkey、Br. Ankit Kumar Baghelが司祭に叙階された。これに先立ち、2月にはBr. Kasu Eliyasがすでに司祭叙階を受けていた。また、Br. Anmol Bara、Br.

Prasandeepp Ekka、Br. Bhushan Minj、Br. Ajay Mallikantiが助祭に叙階され、教会における使徒職への重要な一步を踏み出した。

今後の展望として、このコミットメントの季節はまだ終わりを迎えていない。2026年6月13日には、Br. Kishore Joseph、Br. Gins Francis、Br. Maria Nithin Kumarが莊嚴誓願（終生誓願）を宣立し、フランシスカンのカリスマの豊かさのうちに、生涯にわたって会に身を捧げる予定である。この決定的かつ喜びの奉獻に向

けて準備を進める彼らを、共同体全体が祈りのうちに支えている。

これらの出来事が一様に示しているのは、今なお若者を引きつけ、養成し、派遣し続けている、非常に活気にあふれた共同体の姿である。若い人々は、聖フランシスコがかつて歩んだ福音の道を歩むよう求める召命の声を、今もなお聞き続けている。彼らは今も扉をノックしており、何世紀にもわたる恵みに忠実なフランシスカンは、今もその扉を開き続けている。

召命の恵みの一週間、 養成の重要な諸段階 聖ペドロ・パウティスタ管区、フィリピン



WWW.OFM.ORG



フィリピンのケソン市の聖ペドロ・パウティスタ管区は、召命や養成の諸段階にまつわる重要な儀式が続く一週間を喜びのうちに過ごした。これは、フィリピンおよびアジア全域において、フランシスカンの召命が絶えず成長していることのあかしである。養成年度は、希望に満ちたしるしとともに幕を開けた。同管区は23名の新たな入会希望者を受け入れたからである。入会希望者たちは、「諸天使の聖母神学院」において、識別と養成の歩みを始めることになる。新しい入会希望者のほかに、すでに養成中の18名の希望者がいて、フランシスカンの生活への召し出しを深く探求する準備を進めている若者たちの総数は41名となった。

2026年5月26日、「諸天使の聖母神学院」のポルチウクラ礼拝堂で行なわれた晩の祈りの間に、7名の学生の兄弟たちが、有期誓願を1年間更新した。これらの兄弟たちは、共同体全体が見守るなか、養成の歩みを続けながら、会則と小さき兄弟会の生活に従って福音を生きるという責務をあらためて確認した。

翌日、5月27日には、管区は奉仕者選任式を執り行なった。典礼の儀式の間に、6名の学生の兄弟たちが祭壇奉仕者に選任され、1人の兄弟が朗読奉仕者の奉仕職を受けた。これは、教会と修道会に対する将来の奉仕のための準備のさらなる重要な一步を示すものである。5月28日には、聖ペドロ・パウティス

タの小バシリカにおいて、とりわけ喜ばしい儀式が執り行なわれた。16名の修練者たちが初誓願を宣立したのである。新しい誓願者たちは、本会のさまざまな管区・分管区等からやってきた。8名は聖ペドロ・パウティスタ管区（フィリピン）の出身者で、7名はアシジの聖フランシスコ宣教地区（ミャンマー）の出身者、そして1名は聖アントニオ分管区（シンガポール・マレーシア・ブルネイ）の出身者である。新しい誓願者たちは、この誓願によって、フランシスカンの共同体において、清貧、貞潔、従順の福音的な勧めを公に受け入れた。

儀式は、続いて5月29日に、ラグナ州リリウにあるフアン・デ・プラセンシア修練院でも行なわれ、12名の新しい修練者が修練院に正式に受け入れられた。このグループは、アシジの聖フランシスコ宣教地区出身の兄弟5名、聖ペドロ・パウティスタ管区出身の兄弟4名、そして聖アントニオ分管区出身の兄弟3名からなる。修練期の始まりは、フランシスカン的な生活様式に従い、祈り、兄弟性、識別の経験をさらに深めていくための1年間の始まりを告げる。

この一週間の最後、5月30日

には、朝の祈りのなかで7名の新しい志願者が受け入れられた。この儀式の後、管区はさらに恵みに満ちた瞬間を迎えた。5名の兄弟たちが荘厳誓願を宣立し、教会に奉仕するフランシスカンの生活と使命に生涯をささげることを誓ったのである。

これらの儀式は、この地域におけるフランシスカンの召命の活力を示すものであり、聖ペドロ・バウティスタ管区、ミャンマーのアシジの

聖フランシスコ宣教地区、聖アントニオ分管区の間で深まりつつある協力関係を浮き彫りにしている。兄弟たちが養成の歩みを続けるなか、管区はこれらの召命の賜物に対して神に感謝し、聖母マリア、アシジの聖フランシスコ、聖ペドロ・バウティスタの取り次ぎに委ねた。

兄弟Elimark Cruz, OFM

LIFE in the Order



荘厳誓願

4月23日、聖母の七つの喜び分管区（ブラジル）
兄弟Maicon de Jesus Cruz



帰天された兄弟たち

- † 6月5日：兄弟Rafael de Jesus Rodrigues, モロッコの聖初期殉教者管区（ポルトガル）
- † 6月3日：兄弟David (David Robert) Kohut, グアダルーペの聖母管区（アメリカ合衆国）
- † 6月2日：兄弟Harold (Edward Stoltz) Geers, グアダルーペの聖母管区（アメリカ合衆国）
- † 5月24日：兄弟Oswin (Wolfgang Hubertus) Schirpke, 聖エリザベト管区（ドイツ）
- † 5月23日：兄弟Jaak (Louis) Spreuwers, ゴルクムの聖殉教者管区（ベルギー）

総事務局からの情報



生涯養成における 同伴のプログラム

フィリピンの二つの管区の誓願5年未満の兄弟たちのための



WWW.OFM.ORG

フィリピンのパドヴァの聖アントニオ管区と聖ペドロ・パウティスタ管区は、5月11～20日にかけて、恒例の生涯養成の同伴プログラムを開催した。誓願5年未満の兄弟たちが、カルバヨグ市およびサマル島北部で開かれた合同の養成課程に集まった。テーマは、「何もない土地を受け継ぐ：誓願5年未満の兄弟たちのためのフランシスコの帰天の核心への旅」であった。

10日間にわたるこのプログラムには、荘厳誓願を宣立してから数年以内の兄弟たちが参加し、兄弟性、祈り、そして生涯養成の分かち合いの経験の機会となった。この取り組みは、カルバヨグ市にある、「王であるキリスト学院」

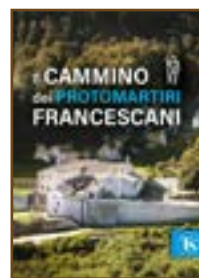


の修道院を会場として行なわれ、共同の祈り、ミサ、個人的な分かち合いの時間が設けられた。兄弟たちは、傾聴と分かち合いの時間を通して、奉献生活、兄弟性、奉仕職における自分たちの経験を振り返った。毎日の活動は、朝の祈りと晩の祈り、ミサ、グループでの分かち合い、そして修道院内でのレクリエーションといったふうに、規則正しいリズムで進められた。

参加者たちは、プログラムの後半では、サマル島北部のさまざまな場所を訪れ、この地域におけるフランシスカンの宣教活動の重要な拠点である、サン・イシドロ、ビリ、サン・アントニオ、カタルマン、モンドラゴンなどを巡った。活動内容には、小教区の訪問、地元コミュニティとの交流、そしてビリ諸島の岩層群などの名所の見学も含まれていた。また兄弟たちは、この地域にある聖クララの貧しき姉妹会の共同体でもひとときを過ごした。

プログラムは、再び「王であるキリスト学院」において、総括と評価の会合、閉会ミサ、そして聖ペドロ・パウティスタ管区の管区長である兄弟Gregorio Redoblado (OFM) からのメッセージで幕を閉じた。同管区長は、兄弟たちに対し、うわべや単なる儀式にとどまらず、真のフランシスカン的な生活を生きるよう招いた。また、もっとも困難な宣教の現場においても、正義と平和・被造物の保全、兄弟性、従順を受け入れるよう勧告した。真のフランシスカンとしてのアイデンティティは、単なる外的な慣行だけでなく、具体的な奉仕において聖なる福音を生きていくことのうちに表われるものだからである。

Franciscan Bookmark



Il Cammino dei
Protomartiri francescani
II edizione

Alessandro Corsi

Terra Santa Edizioni

Subscribe

Write us

Web

Follow us



Newsletter



comgen@ofm.org



www.ofm.org



@ofmorg



@fratrumminorum



@ofm.org



flickr

Curia Generale dei Frati Minori
Via di S. Maria Mediatrix, 25
Roma, Italia

Director: Br Byron A. Chamann Anléu OFM
Translators: Br. John Luke OFM, Br. Arthur Andersen OFM, Br. Rick Martignetti OFM

OFM

Ordo Fratrum Minorum
© 2026 All rights reserved